

一般財団法人伊勢神宮崇敬会
平成 29 年度運営方針及び事業計画

運 営 方 針

本年度は、一般財団法人へ移行後 5 年目を迎え移行認可時に策定した公益目的支出計画は予定通り終了となる。今後も更なる組織基盤の充実を図り、神宮の連綿と受け継がれる伝統や魅力ある文化をより多くの方に伝え、次世代へと紡いでいく懸け橋として運営に努める。

事 業 計 画

1. 文化及び芸術の振興

① 第 62 回神宮奉納大相撲

日本相撲協会協賛のもと、国技である大相撲の取組を通じて守り伝えられた「心・技・体」の神髄を披露する。神宮神苑において横綱の手数入り、また神宮相撲場ではトーナメント戦等を行う。(4月2日)

② 神宮植樹祭の参列

森林のもつ機能の大切さを学び、自然に対する畏敬の念を体感するため神宮宮域林で行われる桧の苗木を植樹するお祭りに、特に許されて参列する。(4月21日 定員20名)

③ 神宮祭典の奉拝及び伊雑宮御田植奉仕

2000年に亘り続けられている恒例祭を奉拝して崇敬の心を体感し守り継がれてきた歴史・文化・伝統を学ぶ。六月・十二月の月次祭(内宮)と神嘗祭(外宮)の神宮三節祭における由貴夕大御饗の儀を始め、平安・豊穰を祈念する恒例祭を奉拝する。また、伊雑宮の御田にて御田植奉仕(6月26・27日 定員20名)を行う。

④ お伊勢さん 125 社まわり

本年度で 17 期目に入る。神宮の全てのお社を年 3 回に分けて巡拝し、神祀りの心を学ぶ。また、昨年に続き滞在日程により参加が難しかった方にも参加いただけるように 1 泊 2 日で 5 回に分けて巡拝できる日程を設ける。

※3 回巡拝日程(5月11~13日、10月29~31日、2月4・5日 定員各36名)

※5 回巡拝日程(4月23・24日、5月21・22日、9月10・11日、10月1・2日、2月25・26日 定員各36名)

⑤ 神宮ばら園の運営

市民を始め伊勢を訪れる方々にやすらう場所を提供する。また皇室敬慕の思いを育むため皇族のお名前を冠したプリンセス・ローズの育成を行い公開する。

⑥ 第 40 回神恩感謝祭

年に一度会員が伊勢に集い、神宮の広大なるご神恩に感謝の真心を捧げ、会員各位の隆昌を祈念するお神楽を奉納する。本年度は、土宮由貴夕大御饗の儀を奉拝する。併せて諸事業及び会員活動など本会の現状報告、及び講演会を実施する。

(6月18・19日 定員220名)

⑦ 神宮奉納文化事業

日本古来から受け継がれる文化及び芸能・芸術の振興を図り、神宮崇敬の裾野の拡充はもとより心の豊かさの涵養に努める。

(9月予定)

⑧ 第 46 回初穂曳への参加

食の文化を大切にしてきた日本の心をつとめ結び、培われてきた豊穰に感謝する気持ちを体験する。初穂米を募り、伝統文化行事

「お木曳」そのままに執り行われる初穂曳に参加し外宮神嘗祭・由貴夕大御饗を拝観する。〔神社本庁協力〕

(10月15日 定員500名 内、本会会員100名)

⑨ 第 63 回伊勢神宮新穀感謝祭

国民総意の趣旨で、全国から毎年多数の参列者を迎えて新穀収穫への感謝の奉告祭を執り行う。併せて農業をはじめとした産業の振興に貢献された功労者の顕彰を行い、我が国の農事全般の発展を祈る。(11月上旬~12月中旬)

⑩ 第 56 回伊勢神宮奉納書道展

毎日新聞社と共催し全国各地から書作品を公募し、1,400年以上に亘って育まれてきた書道の伝統文化を振興し、書にみる芸術性を喚起する。(11月18日~27日)

⑪ 平成 29 年の御礼まわり

大御神様のご神恩に感謝の真心を捧げ、皇室の弥栄、国家繁栄及び各位の安寧隆昌を祈念するお神楽を奉納する。併せて神宮祭典の奉拝及び講演会を実施する。(12月22・23日 定員80名)

⑫ お神楽奉納と神宮茶室での呈茶

伝統ある風習を体験し報恩感謝の祈り(神楽・御饗)を個々に捧げると共に、神宮茶室に於いて茶道により伝えられてきた簡素な美と心に触れる。(6月、9月、11月、2月、3月 定員各20名 年5回)

2. 児童及び青少年の健全育成

① 伊勢の伝統文化体験

全国の小学生とその父兄を対象として、伊勢を中心として育まれてきた精神文化を学習し、健全な心の育成を目的とした体験型教室を開催する。(8月5・6日 定員40名)

② 第 55 回伊勢神宮奉納全日本学生弓道大会

全日本学生弓道連盟・神宮司庁・三重県弓道連盟との共催のもと、第 65 回全日本学生弓道王座決定戦・第 63 回東西学生弓道選抜対抗試合・第 41 回全日本学生弓道女子王座決定戦・第 41 回女子東西学生弓道選抜対抗試合を開催する。(11月17~21日)

③ 第14回神宮奉納お伊勢まいり作文コンクール

全国より伊勢の文化に触れる作文を募集し、国語の表現力を高め優秀作品は表彰する。(表彰式3月17日)

3. 会員組織の拡充と展開

① 入会促進

日本人の大きな精神的支柱である伊勢の神宮を多方面から紹介し、受け継がれてきた神を敬い日本を愛する心の涵養に努める。遷宮を次の世代へと紡ぐ懸け橋として祭典案内等の施策を講じ会員の拡充をはかる。

② 第22回会員研修会

神宮神田での稲刈り奉仕作業及び内宮古殿地清掃奉仕をはじめ夜間参拝を行い研修する。(9月27・28日 定員80名)

③ 会員研修会(特別編)

神道の知識を養い神宮への崇敬心を涵養する会員研修会の特別編を開催する。(10月22・23日 定員40名)

4. 宿泊、研修施設等の運営

① 神宮会館の運営

宿泊研修施設として神宮会館を運営する。お伊勢まいりの宿として細やかに応接し、本会職員が早朝参拝案内をするなど参宮促進と御神徳宣揚に努める。

(ア)第17回八朔まいりとお水汲み

伊勢では八朔の日(8月1日)に、五十鈴川の水をご家庭の神棚に供え、一年の家内安全・無病息災を祈願する風習があり、体験することにより敬神崇祖の念を涵養する。(7月31日・8月1日 定員70名)

(イ)外宮特別参拝と神宮御料地巡り

外宮特別参拝と神宮御料地を巡り神宮のお祭りや歴史に理解を深める。(8月1日・8月2日 定員20名)

(ウ)両宮特別参拝と日別朝夕大御饗祭奉拝

豊受大御神様の御鎮座以来つづけられている日別朝夕大御饗祭の奉拝と両宮特別参拝を行う。お祭りの意義を啓蒙し五穀豊穡を祈り食の恵みに感謝する。(9月20日 定員20名)

(エ)第18回冬至まいりと注連縄作り体験

冬至の日に、宇治橋大鳥居の正面に昇る朝日を拝み、過ぎた一年に感謝する風習を体験し、自然に対する畏敬の念を喚起する。また、伊勢では一年中玄關に注連縄を飾り無病息災を祈る風習があり、その注連縄作りを体験し平安への思いを涵養する。

(12月21・22日 定員80名)

(オ)お伊勢さん正宮・別宮まいり

内宮、外宮と14の別宮を参拝しご朱印を集印。途中神宮ゆかりの施設も訪れる。(2月16・17日 定員40名)

5. 会報、図書その他印刷物の編纂と刊行

① 会報誌「みもすそ」

神宮に関する記事、伊勢志摩の歴史・文芸・習俗の話題、本会行事などの情報発信源の主力媒体として編集し、各会員あてに配布する。創刊から4月で82号発行となる。(年4回発行)

② 叢書

御神徳の宣揚、神社神道の昂揚を図るため神道有識者に依頼し刊行する。

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

① 昼食の利用促進

神社関係者を中心に働きかけ、お神楽奉奏の団体には直会饗膳も提案する。

② 物品、記念品の販売

会館利用者並びに崇敬会会員の利便性を図るため売店を設け記念品・特産品の販売並びに木製品・参宮記念品の謹製・頒布を行う。また通信販売を行いホームページでの紹介を通じて販路の拡大に努める。

③ 研修施設及び神宮相撲場の利用促進

講堂(大ホール・会議室)及び神宮相撲場の利用促進を図る。

④ 神宮参拝者駐車場の運営

内宮前の渋滞緩和の一助として、神宮会館横に隣接する立体駐車場を運営する。

⑤ コインロッカーの運営

宇治橋前にコインロッカーを設置し、内宮参拝者の便宜を図る。

⑥ 太陽光発電事業の運営

我が国のエネルギー政策であるCO2排出削減や再生可能エネルギー導入拡大への協力を行い地球環境保護に貢献するとともに、神宮会館経営の一助とする。

⑦ 神社関係者大会等に出向

各地で開催の神社関係者大会等に出向き、本会の広報を行う。

⑧ スポーツ及び文化活動への助成

行政を含めた協賛・後援依頼団体の行事及び事業の助成をする。

⑨ 参宮案内所における案内

神宮の参宮案内所(宇治橋前)に職員を派遣し、神宮に関する案内を行う。